



日本共産党・前都議会議員 そねはじめ レポート

2012年 1月18日発行 第 28 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

最高裁判決 10年のたたかいで石原教育攻撃に歯止めをかけた！ 「君が代」不起立への累積処分は違法

石原都政による東京の教育に対する攻撃で最悪の被害をもたらした2003年10・23通達による卒業・入学式での「日の丸・君が代」起立斉唱の強制に対し、昨年5月に最高裁は「合憲」と判断しました。

しかし1月16日の最高裁判決では、不起立のたびに累積で処分を重くする都のやり方を問題視。「多大な不利益をもたらす減給や停職を一律に科すことは」行き過ぎとして処分の重度化に歯止めをかけました。

●橋下氏の「不起立3回で首切り」条例案の破たん明らか

すでに大阪府議会に提出された「不起立を3回繰り返したら免職対象とする」という橋下・維新の会の思想弾圧条例案は、最高裁の判決から見ても破たんが明瞭となりました。

現大阪市長の橋下氏は「判決を受け止める」との当日の態度を一変させ、処分の前に教員に繰り返し「研修」させ「反省の態度が皆無」などを理由に免職まで持っていける対策を検討中。精神的拷問で転向を迫り、非転向なら首を切るというやり方は、戦前の治安維持法のおいさえ感じさせます。

●式典出席を義務づけ何度も“踏み絵を踏ませる”やり方も復活？

東京で不起立の教員処分は437人。初年度200人以上から2010年度は9人、11年度入学式では1人に激減しました。都教委は制度が浸透したといいますが、反動派都議の要求で「不起立教員は次の式典出席を義務づけ起立するまで累積処分する」やり方が「あまりに理不尽」と世論の批判を浴び、式典からその教員をはずすようになったからです。橋下氏は大阪でこの残酷な措置も復活させようとしているのです。



参議院東京選挙区の候補者に吉良よし子(きら佳こ)さんを発表

若者の仕事と生活の未来をきりひらくと決意表明



09年都議選前に駒込駅前で宣伝する
吉良よし子、池内さおり、そねはじめ

来年夏の参議院選挙東京選挙区候補に、党都委員会雇用・就活対策室長の吉良よし子さんが発表されました。

吉良さん(29歳)は高知県出身で父親は共産党県議。早大第一文学部を卒業後、民間企業で「企業の社会的責任(CSR)」レポートを担当。日本の大企業がコスト優先のあまり低賃金・非正規雇用を増大させ安全や環境への社会的責任を果たしていないと痛感してきました。'09年都議選候補として豊島区で「キラキラ旋風」を巻きおこし話題に。田村智子議員の参院選候補秘書としても奮闘しました。

16日、都庁で記者会見に臨んだ吉良さんは「未来を担うべき若者がまともに働けず、何かあれば真っ先に解雇される社会は許せない」と若者の仕事と生活の未来を開く国政をめざす決意を訴えました。

知事も知らないという地上部道路をなぜ造る

1月6日、共産党都議団は外郭環状道路(外環道)の「地上部街路」計画中止を石原知事に申し入れました。外環は八ツ場ダムと同じムダ遣い公共事業ですが、石原知事と国が「地下化」計画で復活させ事業化をゴリ押し。さらに都は「地上部も都道で造る」と言い出し、地元自治体が批判していました。昨年12月の定例記者会見で石原知事が「(地上部道路は)あまりつまびらかにしていない」と話したことから、都議団は知事も知らない道路なら最初から造るなどありえず直ちに中止すること、併せて本体の外環道も廃止するよう求めたものです。

3・11飛鳥山公園で原発を無くすための区民大集会を！

震災1周年の3月11日（日）、王子駅そばの区立飛鳥山公園に多くの区民が集い、午後2時46分、東北大震災の犠牲者に黙祷をささげるとともに、東北の真の復興と日本から原発をなくすことをめざす世論を北区から広げる出発点にしようという提案が、北区労働組合連合会から区内の各民主団体に呼びかけられました。

日本共産党は区議団を先頭にこの取り組みに参加し、かつてなく幅広い区民の参加をめざす決意です。1月17日に第1回の実行委員会が開かれ、さまざまな意見が交流されました。



9・19の6万人集会に参加したそね前都議

そねはじめ前都議、新年のバス日帰り旅行で躍進を訴え襲いくる消費増税とたたかい国政前進・都議復活の展望を

1月15日、さがらとしこ区議の活動地域の「あかぎり後援会」は、千葉県南房総への日帰りバスツアーにバス2台で出かけました。そねはじめ前都議も同乗し、共産党の今年の躍進を訴えました。



さがら区議とバスに乗るそね前都議

◆今年と来年には国政と都政の激しいたたかいが

そね前都議は、昨年後援会のみなさんの奮闘で、さがら区議が5期目に当選し区議団9名全員が勝利したことに感謝するとともに、都内で最大の議員団が力をあわせて放射線対策や災害に強い北区をめざし大きな成果をあげたことを紹介しました。

また今年も解散・総選挙の可能性が高く、その時は池内さおり12区青年部長が小選挙区候補として先頭に立つこと、総選挙で躍進してこそ来年の参院選・都議選で小池晃政策委員長とそねはじめの議席を取り戻す道も大きく開けることを訴えました。

そねはじめ交友録<その二十二> 青年団の「村おこし」で上京し、 区議夫人になったIさん

私が遭遇した若い女性でユニークなのが、九州の過疎の村から「村おこしに青年団代表として上京した」というIさんです。彼女の「人形劇を覚えて帰り村祭りを盛上げる」というのもフルっていました。

どういうルートか区議の私に、学生時代と北区の青年サークルで人形劇をやっていた経歴を買われて「面倒見てやって」と相談のお鉢が回ってきました。

当時劇団ブークで人形制作のプロの方を探し出し、彼女を連れて行くと、少しからくちの話を聞いて、すぐ諦めてしまいました。

それからの彼女は北区で民主青年同盟の活動に参加し、翌年には都委員会役員になり、同じ役員の男性と恋に落ち結婚。仲間のカンパで送ってもらったという故郷青年団の「壮大な任務」をあっさり放棄してしまったのです。今思えば東京に憧れて「村おこし」を口実に上京したかっただけなのかもしれません。仲間もそんな彼女の本心をうすうす知って餞別代りに旅費を集めてくれたのかもしれません。結果としてIさんは、夫がある区の区議に当選し、今や大活躍の政治家を支える存在です。深刻に悩まずいつも明るく”結果オーライ”という言葉がぴったりのIさんのような若者がもっともっと増えてほしい今の日本ではないでしょうか。

私が20代の頃、北区を本拠地に青年で「さんしょっ子」という人形劇サークルをつくった頃の練習風景。右側の図は、当時私が考案した「棒使い人形」の構造デッサン。

